

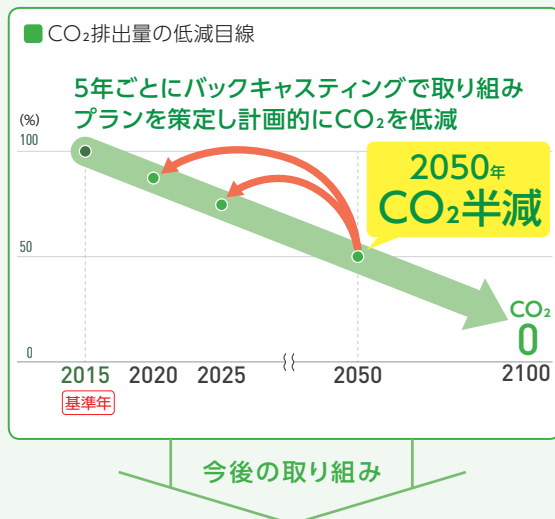
脱炭素社会の実現をめざして

2016年11月、今後の国際的な地球温暖化対策の枠組みである「パリ協定」が発効され、世界中の国々が団結して温暖化対策を強化していく方向性が示されました。「産業革命前からの平均気温上昇を2℃未満に抑える」という目標に向かい、脱炭素化社会への転換に向けた取り組みが求められています。東海理化グループでは、グローバル企業としての役割を果たしていくため、2つのActionによりCO₂排出量の低減を計画的に進め、気候変動の緩和へ貢献することをめざします。

Action 01

2050年をターゲットとし、
計画的なCO₂排出量
低減を進めます

東海理化グループでは、2050年をターゲットとし、CO₂半減の長期低減目標を設定しました。この目標に向かい、計画的なCO₂低減を進めていくため、バックカスティング(未来から現在を見返す)の考え方で5年ごとに取り組み計画を策定しながら活動を推進していきます。



生産工程での省エネ

- ・エネルギーのJIT(ジャストインタイム)化推進
- ・低CO₂生産技術の開発推進
- ・省エネ改善事例の横展やりつくし
- ・シンプル・スリム・コンパクトな省エネ型ライン

建物・原動力設備の省エネ

- ・建物ZEB(ゼロ・エネルギー・ビル)化推進
- ・トップランナー機器への更新

エネルギーマネジメント

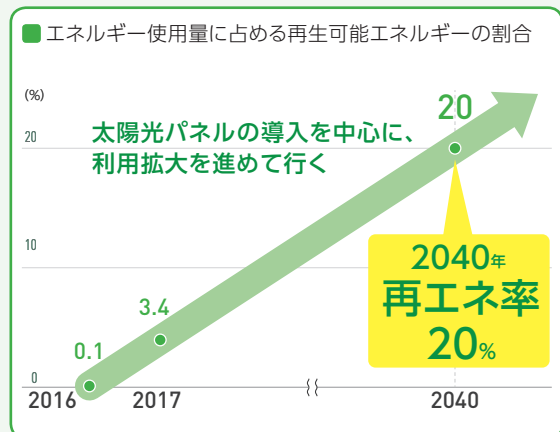
- ・エネルギー使用量の見える化推進
- ・エネルギー供給のベストミックス

再生可能エネルギーの利用

Action 02

東海理化グループ全体で、
再生可能エネルギー
への切替えを進めます

事業活動で使用するエネルギーは、徹底した省エネ改善により使用量のミニマム化を進めていきますが、最低限のエネルギー使用は残ってしまいます。そのため、脱炭素化を進めていくには、CO₂を発生しない再生可能エネルギーの利用が不可欠です。東海理化グループでは、2040年までに再生可能エネルギーの利用率20%以上を目標に掲げ、太陽光パネルの導入をはじめとする再生可能エネルギーへの切替えをグループ全体で進めていきます。



TRCW(中国)に導入したメガソーラー(2017年度設置)